

スピリチュアルケア師
資格更新のための
「事例報告（会話記録）」作成方法

日本スピリチュアルケア学会

教育委員会

委員長 谷山洋三

はじめに

- 日本スピリチュアルケア学会では「スピリチュアルケア師」を養成するプログラムを「認定教育プログラム」と呼んでいます。
- それぞれの認定教育プログラムによって、事例報告（会話記録）の書式や書き方に多少の相違があると思いますが、本学会としては、資格更新手続きの時に提出する事例報告（会話記録）については、書式を指定しています。
- ここでは、この指定書式について解説します。
- 単に書き方の説明だけでなく、スピリチュアルケアを理解するためのある程度共通した視点についてもお話します。

事例報告の目的

- スピリチュアルケア師の資格更新のため、「5年間で400時間以上の臨床活動」とともに、定期的に活動内容や自己の在り方を振り返るために、「事例報告を5本提出」する。
- 「事例報告5本」のうち、「3本」については認定教育プログラムにおいて指導（スーパーヴィジョン：以下S V）を受ける。
- 本学会においてスピリチュアルケアとは、「スピリチュアルケア師からケア対象者へと一方的に提供されるもの」ではなく、「スピリチュアルケア師自身のスピリチュアリティの自覚」が伴うものである。
- そのため、事例報告を作成する過程においても、スピリチュアルケア師自身の自己覚知（自己理解、自己認識、自己洞察）が必要。

事例報告の作成準備

- 臨床活動が必須
- 臨床活動においては通常はICレコーダーなどは使用しないため、自分の記憶が頼りになる
 - そのため、臨床活動の休憩中ないしは終了直後にメモをとることが必要
 - ただし、そのメモは紛失しないように注意する
 - ケア対象者についての情報はできるだけ秘匿され、指導者も本学会も情報保護をする義務があるが、原則として活動場所の担当者には「資格更新に必要」という説明をし、了承を得ておくことが望ましい
- 文字数に限りがあるので、特に気になった一連の場面を抜き出す
 - 要約のような記録ではなく、会話者双方の反応が分かるような、連続した場面を逐語録として書き出す

事例報告の作成 I

- 【記録作成例】に従う
- 日付の記載は、年だけは必ず明記し、月日はx, yなどで記載。（例：2018年1月 y 日、2022年 x 月6日、2024年 x 月 y 日）
- 場所は、都道府県よりも狭い範囲を限定できないようにして、どのような場所なのかを記載。（例：P氏自宅（中部地方）、宮城県内病院、都内福祉施設）
- スタッフや関係者を含め、宮城氏だからM氏とするのではなく、氏名はA B C、P Q Rなどで記載する。
- 正確な年齢を把握していたとしても幅をもたせる。（例：80代男性、40～50代女性）
- 地名は、逐語録内においても、宮城県だからM県とするのではなく、A B C、P Q Rなどで記載する。

事例報告の作成 II

- 何回目の訪問（対応）なのかを記載。（例：17/52回目、1/1回目）
- 冒頭に、ケア対象者の状況、病名、家族背景、スピリチュアルケア師がこの事例に関与した経緯・きっかけ、会話場面（逐語録部分）の直前の状況などについて簡潔に記載。
- 会話場面（逐語録部分）の後に、その後の状況について簡単に記載。
- 方言を無理に共通語（標準語）に直す必要はないが、必要に応じて補足説明をする。

事例報告の作成Ⅲ

- 逐語録部分では、それぞれの発言箇所の最初に、M5、C14のような記号を付す。数字は、対話相手の番号とずれても構わない。
- () を使って、相手の様子や状況説明などをできるだけ書き加える。(例：微笑んだ、沈黙、立ち上がった、など)
- [] を使って、自分の気持ちをできるだけ書き加える。(例：悲しい、聞き続けるのが辛い、何も言えない、など)
- できるだけ難解な専門用語(医療・福祉・心理、教学・神学・宗学的な用語)を使わないようにする。使用する場合には必要に応じて補足説明をする。

事例報告の作成Ⅳ

- 振り返りとして①対象者理解、②自己理解、③S V後の振り返りを記載。（なお、③は指導を受けた場合のみ）
- 上記の本文と振り返り①②を合わせて、A4用紙2枚以内に収まるように記載。
- 振り返り③は、3枚目に記載。
- ①対象者理解について、後で詳しく説明します。
- ②自己理解では、S V前の自己理解、課題、反省点などについて記載
- ③S V後の振り返りでは、S V後で気づいたことを記載。

対象者理解 I

思いの対象	積極的感情	消極的感情
超越的		
現実的		
内的		

- この表では、ケア対象者のアセスメントについて、事例状況に即して記載。なお、6カ所すべてに記入する必要はない。
- ケア対象者の言動や心的状況などを参考にして、積極的感情（ケア、支え、願い、希望、愛情、信頼、期待など）の表現や、消極的感情（ペイン、苦悩、不満、不信、挫折、失敗、怒り、不安など）の表現を記載。

対象者理解 II

思いの対象	積極的感情	消極的感情
超越的		
現実的		
内的		

- 感情や思いが向けられた対象を、「超越的」「現実的」「内的」の3つに分ける。つまり、「超越的・積極的」「超越的・消極的」「現実的・積極的」「現実的・消極的」「内的・積極的」「内的・消極的」の6つの欄のうち、当てはまる欄に記載。
- 6つの欄のどこにも当てはまらないことは、欄外に記載。

対象者理解Ⅲ (例)

思い/感情の対象	積極的感情の表現	消極的感情の表現
超越的	亡き祖母との絆 信仰心 座右の銘 天国への期待	神への不信感 地獄に落ちないか 亡き姑に会いたくない 嫌いな言葉
現実的	うどんを食べたい 家族への感謝 ペットに会いたい 信頼できる人	父への怒り 誰も信用できない 孤独 財布を落とした
内的	なつかしい思い出 明日への希望 今を生きる 独りがいい	家族の行く末が心配 過去の失敗 むなしい人生 自分を許せない

なぜ超越的/現実的/内的に分けるのか？

- スピリチュアルケアやスピリチュアリティの概念構造を検討した様々な論考において、多少の表現の違いはあっても「超越的/現実的/内的」と分けられている
- 例えば、
 - 大下大圓・梶山徹（2020）A P C 人生会議でこころのケア、ビイング・ネット・プレス、pp. 59-62
 - 河正子（2005）スピリチュアリティ、スピリチュアルペインの探求からスピリチュアルケアへ、緩和ケア、15(5)、p.369
 - 窪寺俊之（2008）スピリチュアルケア学概説、三輪書店、pp.23-26
 - 谷山洋三（2016）医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア、中外医学社、pp. 68-74

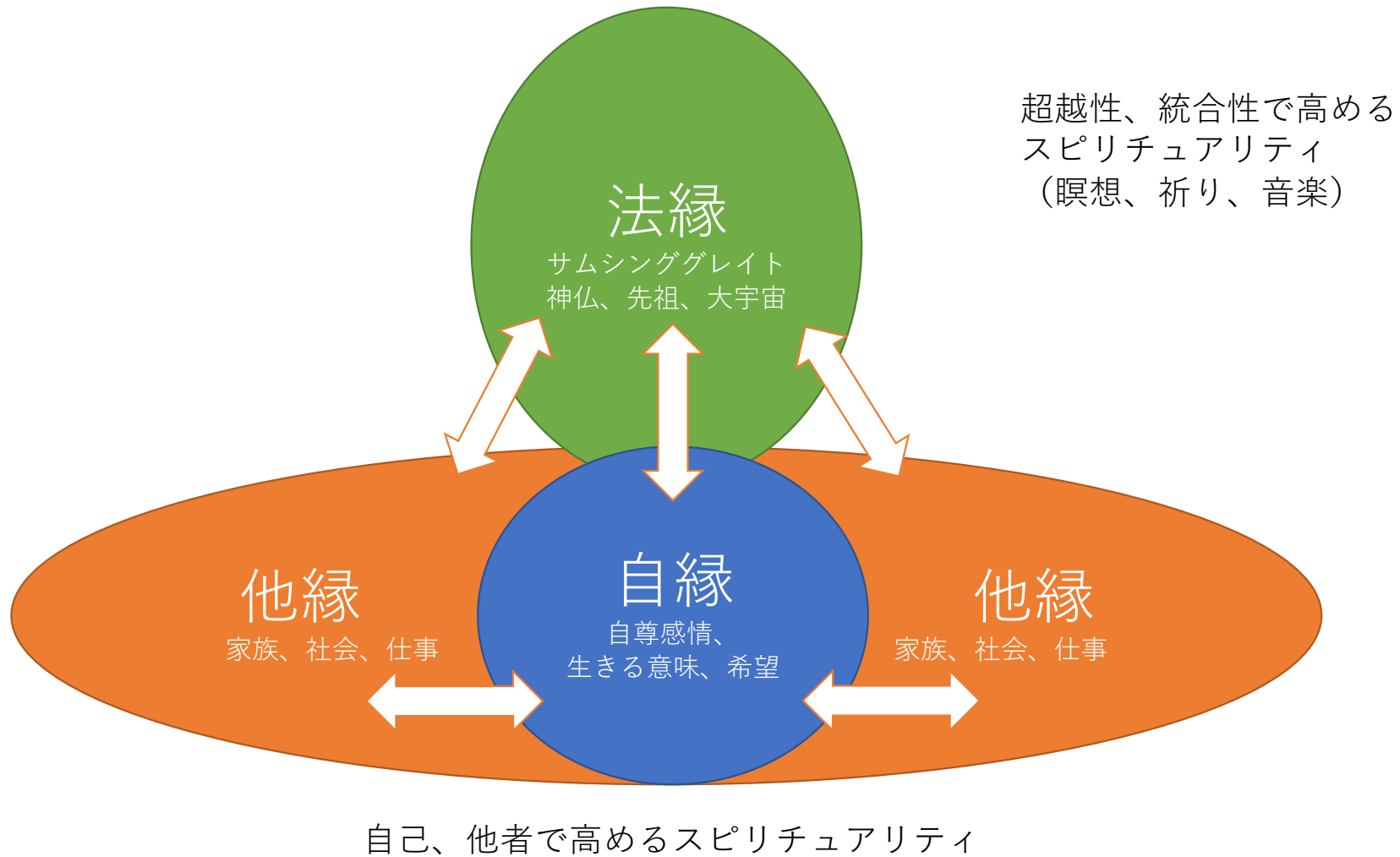
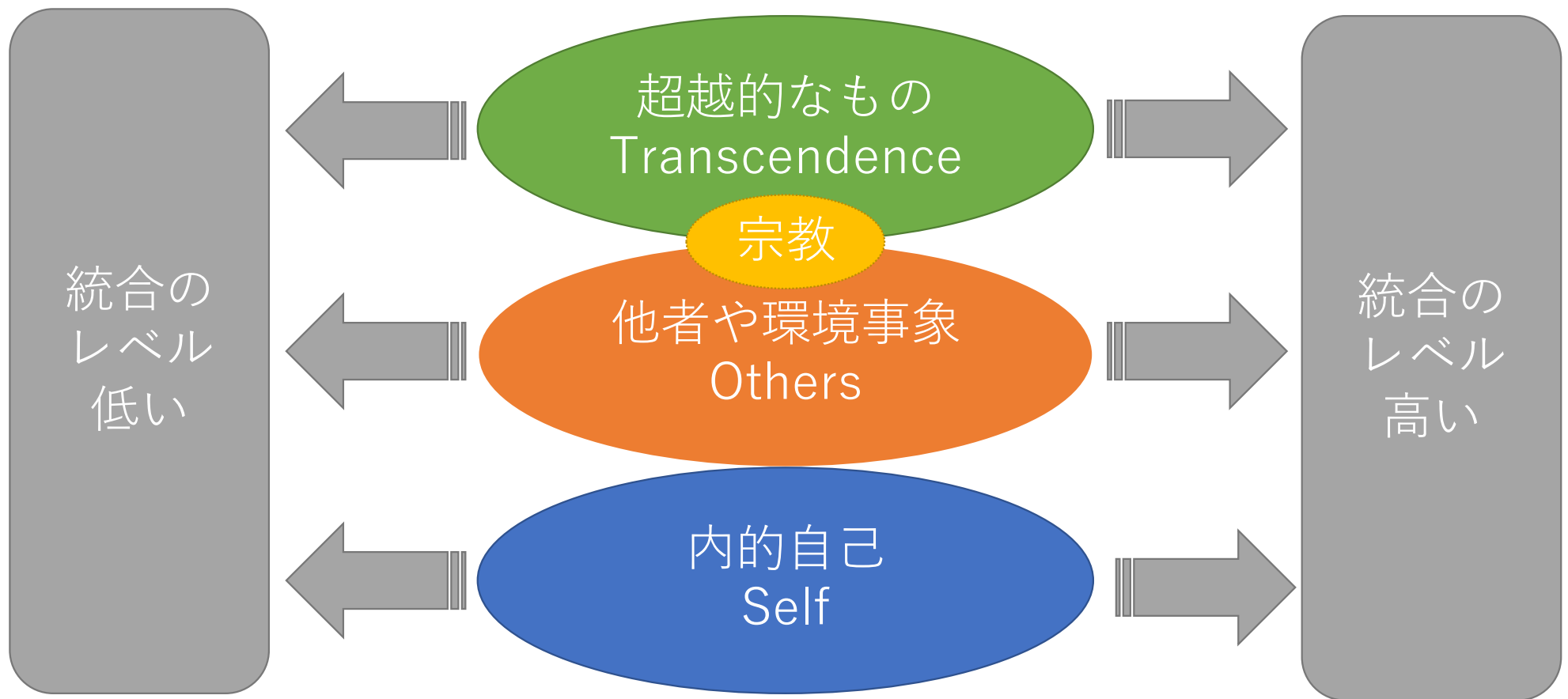


図1 縁生によるスピリチュアリティの関連性と向上性 (大下・梶山 2020, 60)



「掘りどころ」としての探求の対象

図2 スピリチュアリティの概念構造 (河 2005, 369)

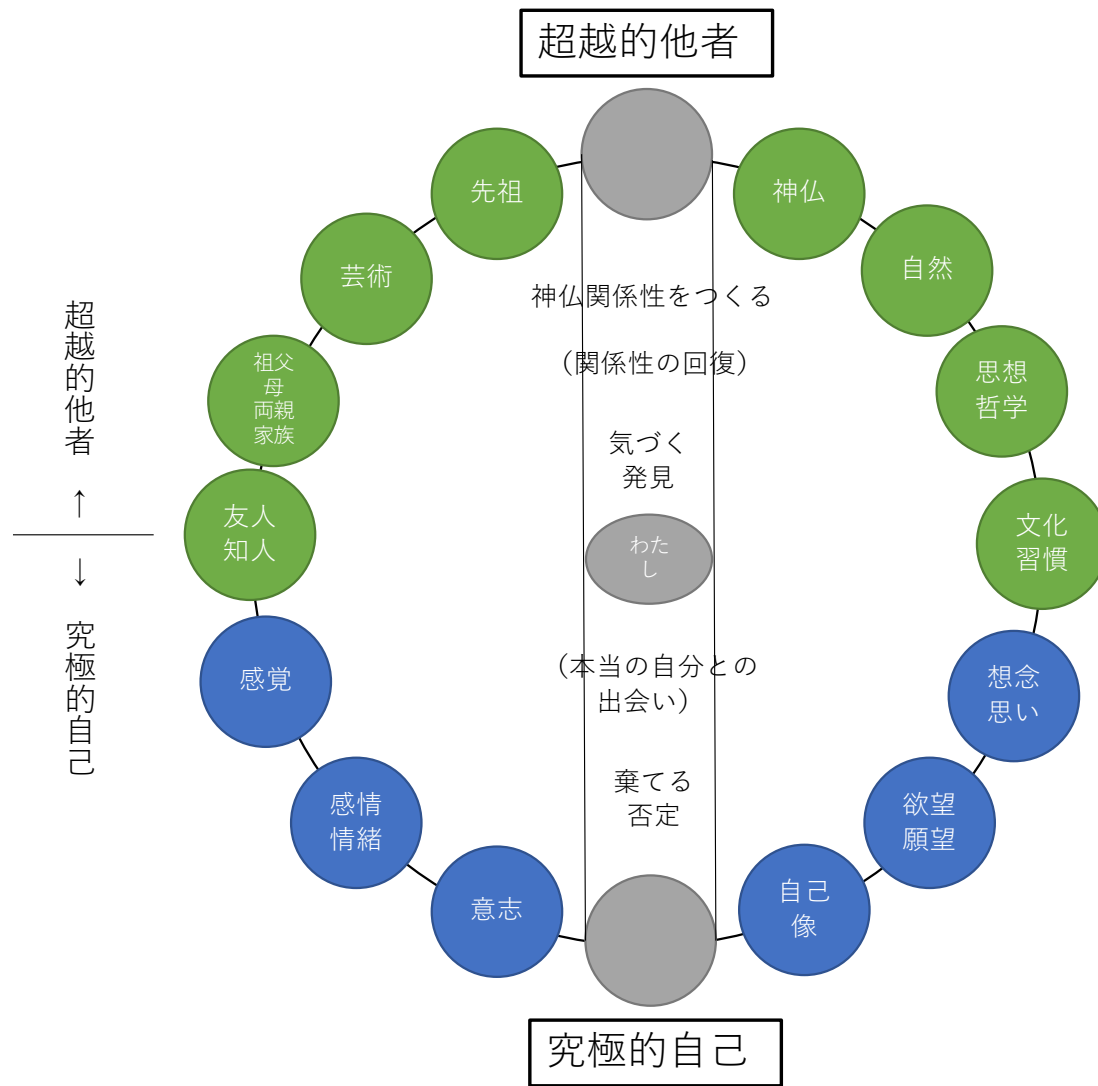


図3 日本的スピリチュアリティの概念 (窪寺 2008, 25)

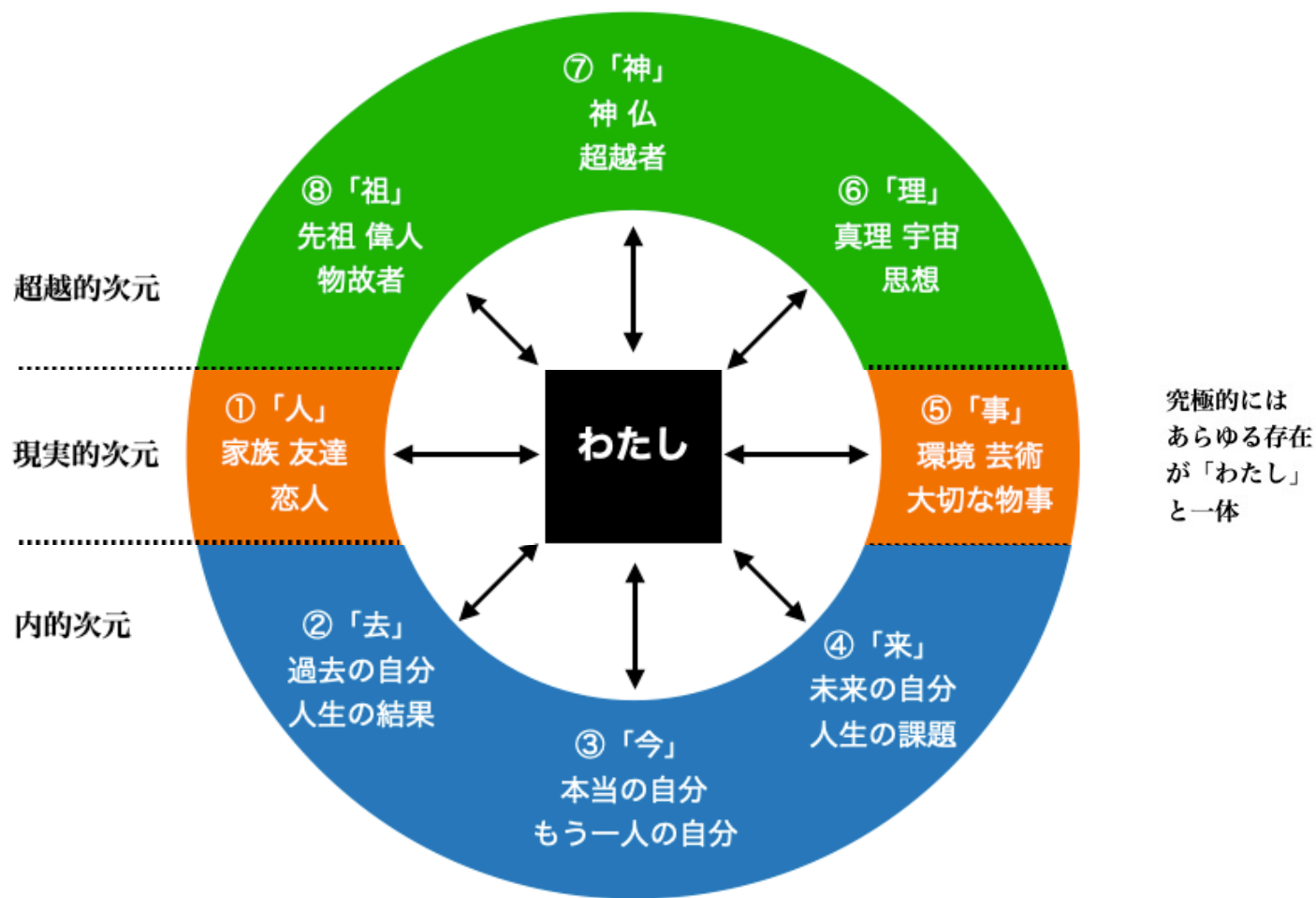


図4 スピリチュアルケアの構造（谷山 2016, 70）

4者の論考を比較

	大下・梶山 (2020)	河 (2005)	窪寺 (2008)	谷山 (2016)
超越的	法縁	超越的なもの	超越的他者	超越的次元
現実的	他縁	他者や環境 事象	—	現実的次元
内的	自縁	内的自己	究極的自己	内的次元

対象者理解Ⅲ (例)

思い/感情の対象	積極的感情の表現	消極的感情の表現
超越的	亡き祖母との絆 信仰心 座右の銘 天国への期待	神への不信感 地獄に落ちないか 亡き姑に会いたくない 嫌いな言葉
現実的	うどんを食べたい 家族への感謝 ペットに会いたい 信頼できる人	父への怒り 誰も信用できない 孤独 財布を落とした
内的	なつかしい思い出 明日への希望 今を生きる 独りがいい	家族の行く末が心配 過去の失敗 むなしい人生 自分を許せない

積極的/消極的感情表現

- スピリチュアルケア師は、自己の感情をそのまま表現することを訓練されているが、一般的な会話においては感情をそのまま表現するとは限らない。
- 感情は、別の言葉で表現されたり、行動になったり、身体表現になることもある。
- 実際には積極的でも消極的でもない、感情や、それらが中立的に表現されることもあるが、スピリチュアルケア師には、そのような多様な表現を的確に理解し、受け取ることが求められる。

事例報告（会話記録）作成による内省

- 事例報告（会話記録）を作成することにより、以下のことが期待される
 - ケア対象者への対応を振り返る
 - スピリチュアルケア師自身の経験を振り返る
 - スピリチュアルケア師自身の対人関係上の傾向を自覚する
 - スピリチュアルケア師としてのさらなる成長を促す
- スピリチュアルケア師倫理綱領
 - 9-1 スピリチュアルケア師は、自己のケアの専門的能力と限界をよく認識し、その範囲内でケアを提供する。
 - 9-3 スピリチュアルケア師は、ケア対象者の利益と自らのケア力向上のため、絶えず自己研鑽に努める。